

2024度 【 就労・日中 】支援部会報告

部会テーマ【 利用者支援を軸にした事業の課題を考えよう 】

構 成 員 【生活介護、就労継続支援 A 型・B 型、自立訓練、就労移行支援】

部 会 開 催	●八尾市障害福祉課との懇談 令和 6 年 7 月 24 日（水） 参加者 30 名 ・昨年度、部会でまとめた意見に基づいて、障害福祉課と懇談を行った。 ・参加者から事業所の抱える課題、利用者の実態を伝え、現行制度は事業所の現状や障害者の実態に合っていないことが意見として出された。
	○世話役会議 令和 6 年 9 月 25 日（水） ●第 1 回支援部会 令和 6 年 11 月 22 日（金） 参加者 21 名（就労系事業所） ・市との懇談の報告と参加者からの感想 ・意見交換＜事業所の強みや特徴、抱えている課題、具体的な取り組み＞
	●第 2 回支援部会 令和 6 年 12 月 13 日（金） 参加者 17 名（介護系事業所） ・市との懇談の報告と参加者からの感想 ・意見交換＜抱えている課題、現在行っている支援や具体的な取り組み＞
	●全体研修会 令和 7 年 1 月 30 日（木） 参加者 41 名（日中部会から 23 名） ・テーマ「＼ケアの脱家族化、という実践－全身性障害、知的障害、精神障害の成功事例の比較から－」 ・講 師 佛教大学社会福祉学部教授・八尾市自立支援協議会会長 塩満 卓先生 ・第 1 部講演／第 2 部グループ討議
テ ー マ に つ い て 深 め た 点	参加事業所が多いため、就労系と介護系に分かれて部会を開催し、それぞれの実態に即した課題や取り組みについて話した。 ○就労系事業所では、主に以下の課題が挙げた。 ・作業単価の低さや、仕事量の不安定さにより、安定した運営が難しい。 ・一部の事業所では、自主製品の開発や施設外就労など、収入向上に向けて工夫している。 ・平均工賃が報酬に影響するが、作業支援に加えて生活支援の必要性が高まっている。 ○介護系事業所では、主に以下の課題が挙げた。 ・高齢化により、従来の活動への参加が難しくなったり、医療的な支援が必要になったりしている。 ・利用者の親が要介護となり、親が家庭で支えてきたケアが限界を迎える事例が増えている。 ・親がケアできなくなったことで、生活の場を探す必要が出てくるが、受け入れ先が見つからない、選択肢が少ない、定員に空きがないなどの理由で移行が進まない現状がある。 ・若年層の利用者では、複数の事業所を併用する事例が増え、事業所間の連携が必要になっている。 ・共働きやシングル家庭といった親の働き方にも配慮が必要であり、長時間や土日の受け入れなどの支援体制が求められている。 それぞれの事業所が置かれている状況は異なるものの「利用者の生活全体を支えるための支援」が共通の課題として挙げた。
部 会 の ま と め	・本部会では、一昨年度から積み重ねてきた事業所の実態や課題を整理し、今年度は障害福祉課との懇談を行った。実態を市と直接共有できたことは、これまでの活動の積み上げの成果であり、参加した事業所からは、今後も数年おきに懇談の継続を望む声が上がった。 ・また、世話役と事務局が協力して部会運営を行い、継続的な部会での話し合いを通じて、事業共通の課題として、意見をまとめることができた。地域の事業所同士がつながり、課題を一緒に考えていくことで、地域の課題解決への力となることを感じている。 ・全体研修会では、塩満卓先生による「ケアの脱家族化」にテーマにした講演とグループ討議を行い、支援者としての立ち位置や、障害者の親子関係、暮らしの場の選択肢の少なさなど、現場で直面する複合的な課題について深く考える機会になった。 ・現場は、どの事業所も人材確保や育成の難しさに直面しており、研修の機会も限られている。そのような中、支援部会の活動や全体研修会の学びや交流が、支え合う関係づくりにつながっている。

2024 年度 【入所・グループホーム】支援部会報告

部会テーマ【利用者支援を軸とした支援の課題】

部会開催	○世話役会議（5/22） ●第1回部会（7/24） 参加者 12 名 ・昨年度までに出ていた課題をまとめ、障がい福祉課との懇談会を実施。 ・課題のまとめに対して障害福祉課より説明 ・少人数だったため、普段から疑問に思っていることについて座談会形式で話し合った。
	○世話役会議（9/3） ●第2回部会（10/24） 参加者 23 名 ・自己紹介 各事業所の定員、性別、障がい種別、特色（アピールポイント） ・『世話人さんの業務マニュアルって?!』をテーマに各事業所の業務マニュアル、支援マニュアルの有無、作成にあたって配慮した点、作成して良かった点、悪かった点について意見交換 ・発表とまとめ ・アンケート（感想及び今後の部会で取り上げて欲しいテーマ）
テーマについて深めた点	・グループホームは訓練等給付に位置付けられているように、対象者が就労をしている夕方～翌朝中心の支援が必要な方から始まっている。最近では終の棲家を求める利用者に変化してきており、重度の方が利用するためには日中活動や通院の支援、スプリンクラーを始めとする設備面等、制度の整備が必要。 ・世話人の確保及び質の向上が課題。世話人に求められる役割の変化に伴い、現在の補助金では人件費が賄えない。 ・防災、感染症対策は少人数の事業所では人員確保やハード面の整備に限界がある。 ・グループホームにおける支援の質の向上のために世話人の業務マニュアルは必要だが、個人情報をごくまで盛り込めるか、世話人にどこまで求められるのか、世話人の確保に必要な条件等、今後も各事業所での取り組みを共有していく必要があると感じた。
部会のまとめ	・問題や課題を一事業所で抱え込まないよう、ネットワークづくりが重要である。他事業所の状況や工夫を共有する事で、支援の質の向上だけでなく、虐待の防止にもつながる。 ・部会を通して各事業所間のネットワークを作ることが、災害や感染症等有事の際にも助け合える体制づくりにもつながる。 ・障がい福祉との懇談は市と協力し合いながらより良い支援体制づくりをおこなうきっかけになった。

2024 年度 【地域生活】支援部会報告

部会テーマ【人材不足の解消と支援への対応】

部会開催	第1回 令和6年11月8日（参加者：8名）
テーマについて深めた点	1. 各事業所の人材不足の解消と問題点 2. ヘルパーの SOS への対応（現場から緊急時の連絡が入った場合） 3. ケアマネや相談員との連携 4. 利用者や利用者家族からの暴言や暴行があったときの対応
部会のまとめ	・「参加したいが、なかなか時間を割くことができない」との話があったため、途中参加や、途中退席など参加しやすい体制づくりをしながら、部会を通じて事業所間の情報交換や横のつながりができればと考え、参加しやすい体制を作っていければ考える

2024 年度 【障害児】支援部会報告

部会テーマ 【 利用者支援を軸とした事業の課題を考えよう！ 】

構 成 員 【 保健所・保健センター・支援学校教員・医療型児童発達支援センター
児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援・居宅介護・短期入所事業所 】

部 会 開 催	○世話役会議… （打ち合わせ）4 月 30 日 / （振り返り）7 月 8 日 ●第1回部会（6 月 27 日） 参加者 80 名 （内、相談支援事業所 11 名） テーマ 「こども総合支援センター ほっぷを知ろう！」 ～支援の必要な子供の発見・介入から、切れ目のない支援体制の構築に向けて～ 【ほっぷ】の職員より、「日々の実務」・「子ども支援と家庭支援の実際」・「他機関と連携する上での課題」等のお話を受け、質疑応答・意見交換を実施。
	○世話役会議… （打ち合わせ）1 月 21 日 / （振り返り）3 月 26 日 ●第2回部会（3 月 12 日） 参加者 46 名 （内、相談支援事業所 10 名） テーマ 「18 歳の進路支援」～ 私たちにできること ～ 【社会福祉法人「虹のかけはし」 八尾市立障がい者総合福祉センター】より、「進路の選択肢としてどのようなサービスがあるか」・「18 歳時の移行支援の事例報告」・「相談支援専門員として感じている課題」等のお話を受けた後、参加者間でグループワークを実施。 新たな環境へと送り出すための取り組みや療育・その時に感じた課題などについて討議を行った。
や お っ こ チ ャ ン ネ ル	目的 相談支援事業所や関係機関・保護者がそれぞれの児童にあった事業所の紹介・選択ができるよう、事業所の様子がわかりやすい媒体を作る。 → 具体的内容 児童通所支援をされているそれぞれの事業所の特徴や取り組み内容をまとめた紹介動画を作成していただき、YouTube で閲覧することが目標。 前年度より有志を募り、動画作成チームを立ち上げ、ルール作りなどの活動を始めた。 活動内容 ★打ち合わせ ○5 月 9 日（木） 動画編集アプリの練習を開始。（参加者： 12 名） ○6 月 13 日（木） 動画作成に当たるルールを作成。（参加者： 7 名） ○9 月 13 日（金） 勉強会に向けての打ち合わせを実施。（参加者： 6 名） ★勉強会の開催 ○9 月 26 日（木） （参加者： 20 名。） 動画作成などが苦手な方を対象に動画編集ソフトの操作方法などの勉強会を開催。 ★以降も動画集約のシステム作り・保護者の方へ統一した説明をするための案内文の作成・動画作成に当たる注意事項の確認動画を作成する等、始動に向けた活動をしている。

テーマについて深めた点	・連携の重要性 昨年に引き続き、「利用者を軸とした支援をするには支援者間の連携が重要であるが、他事業所と関わる機会が少ない」という課題から、地域連携や多職種連携に軸にした活動を実施。 1 度目の部会では【ほっぷ】の組織体制や各課の役割や支援内容などを学び、相談をしやすい関係作りを構築することができた。 2 度目の部会では児童のライフステージの中で特に環境の変化の大きい 18 歳の進路に注目。進路の選択肢を学ぶとともに、グループワークにて切れ目のない支援をするためには支援者間の連携が大切になることの確認できた。
部会のまとめ	・連携の重要性 「不登校や引きこもりなどで居場所のない児童への介入が難しい」・「相談支援専門員や他事業所など横の連携は勿論、ライフステージに応じた縦の連携も、なかなか取れていない」等の課題があることを確認。切れ目のない支援をするためにも、放課後デイサービスの役割や課題の見直しが必要であることを共有することができた。 また、2 回目の部会を通じて、放課後デイサービスは卒業時の進路支援に携わる機会が少なく、情報も入りにくい状況にあることが分かった。 「安心して送り出し（卒業）をするためにも必要な療育支援をしたいが、どこまでの支援を求められるのかが分からない」や「情報が入れば支援ができることが増えるので、もっと進路支援の実情を知りたい」等のニーズの確認もできたことから、次回も進路支援に注目した活動を行う予定。 問題や課題を一つの事業所で抱え込まないためには、利用者を中心としたネットワーク作りが不可欠である。よって、今後も相談支援専門員と交流をすることを目的に、部会開催時には相談支援事業所にも案内を続けていく。